



データシート・キャプチャ・CONNECTORS

まだ新しいファイルをDMSに手作業で入れていますか？ これからは、Connectorが自動で取り込みます。

Connectorは、Storage Mountの一つのフォルダ、またはメールボックスを監視し、新しいファイルを保存先のWorkspaceに取り込みます。その後、認識と自動化が、どのアップロードの場合とも同じようにそこで実行されます。ドキュメントがNAS、サーバー、バケット、メールボックスに届くチームのために作られています。

一目で分かること

取り込みまたはインデックス、一分からのスケジュール、即時同期のためのWebhook URL、そして元ファイルに対する後続のアクション。新しいファイルはすべて保存先のWorkspaceに届き、そこで処理されます。

01・概要

ファイルは、あちこちに届く。 Connectorが取り込む。

請求書はNASのフォルダに、スキャンはサーバーに、納品書はバケットに、添付ファイルはメールボックスに届きます。誰かが確認してアップロードしなければなりません。Connectorは、スケジュールに従って、またはWebhook経由で都度、元の場所を確認し、新しいファイルをすべて保存先のWorkspaceへ渡します。

情報源

SFTP、WebDAV、S3、Reverse-SSH経由のフォルダ、IMAPメールボックス、Scanner Endpoint

二つのモード

取り込みはファイルを引き継ぎ、インデックスは元のファイルをお使いのストレージ上で変更せずに残す

起動

数分から数週間までのスケジュール、Webhook URL、または手動開始

保存先

保存先のWorkspaceはちょうど一つ。そのAI-DMSティアが処理を決める



取り込みかインデックスか

取り込みはファイルを暗号化してWorkspaceに保存します。インデックスは原本をお使いのストレージに残し、検索可能にして、すべての変更を追跡します。

インデックスモードのサブフォルダ

インデックスモードでは、Connectorはすべてのサブフォルダを読み取れます。NASシステムのごみ箱やスナップショットのフォルダは、自動的にスキップします。

プレビュー付きのスケジュール

間隔を分、時間、日、週で設定します。保存する前に、アプリが一日あたりと一か月あたりのチェック回数を表示します。

Webhookで即時に

秘密のウェブフックURLは、スクリプトなどから、ほぼ即時の同期を開始します。ローテーション後は、古いURLがすぐに使えなくなります。

取り込み後の後続処理

元のファイルを残すか、アーカイブフォルダへ移すか、削除するかを選べます。インデックスモードでは、原本は常に変更されません。

インデックスモードの安全ブレーキ

多数のファイルが一度に消えた場合（たとえばドライブがアンマウントされたとき）、**削除を確認**で選択するまで、PaperOfficeはごみ箱へ何も移動しません。

02・仕組み

元、保存先、ルール。 あとは自動で動きます。

用途が「インポートソース」のStorage Mountが必要です。Connectorは二つのタブで設定し、その後はスケジュールに従い、また都度動作します。

1

Connectorを作成する

Document AI › Connectors の下で **コネクタを作成** をクリックします。 **インポートソースとターゲット** タブで、インポートソース、 **監視フォルダ**、 **ターゲットWorkspace** を選びます。

2

モードを選ぶ

取り込みまたはインデックス。モードはConnectorの作成後に固定されます。別のパスには、単に二つ目のConnectorを作成してください。

3

スケジュールと後続処理

アクション タブで間隔を設定し、 **ウェブフックURL** をコピーして、取り込み後に元のファイルをどうするかを決めます。

4

Workspaceでの結果

新しいファイルは保存先のWorkspaceに表示され、そのAI-DMSティアで処理されます。概要では、Connectorごとのステータス、ログ、エラーを確認できます。

技術データ

機能	詳細
情報源	Storage Mounts : SSH/SFTP、WebDAV、S3、Reverse-SSH、メール (IMAP)、Scanner Endpoint
インデックス	SFTP、Reverse-SSH、S3、HTTPS経由のWebDAV。同期ごとに最大200,000ファイル
間隔	取り込みは1分から、インデックスは15分から、メールは5分から（既定は15分）
後続処理	元のファイルを残す、アーカイブフォルダへ移す、または削除。インデックスモードでは変更なし
メール	未読のメッセージを取り込み、その後既読にします。添付ファイルは個別のドキュメントになります
インデックスモードでの削除	2回の完全な同期でファイルが見つからない場合、そのドキュメントはごみ箱へ移動します
アクセス	Webアプリの Document AI › Connectors の下。REST API : connectors/list、add、update、trigger、logs

03・実際の活用

三つの情報源、一つのパターン。 チームがどう活用しているか。

NASの請求書フォルダ

経理がNASのフォルダにPDFを入れます。取り込みモードのConnectorが一時間ごとにそれを集め、元のファイルをアーカイブフォルダへ移して、経理のWorkspaceに渡します。

十二年分のファイル、インデックス化

アーカイブフォルダ上のインデックスモードのConnectorで、サブフォルダを含めて処理します。ファイルはNASに残り、PaperOfficeはそのすべてを読み取り、変更に応じてインデックスを最新に保ちます。

請求書のメールボックス

Connectorが15分ごとにメールボックスを確認します。新しいメールは添付ファイルとともに受信箱のWorkspaceに届き、そこでWorkflow Agentが振り分けを行います。

よくある質問

先にStorage Mountが必要ですか？

はい。Storage Mountは、用途をインポートソースとして、接続と認証情報を保持します。Connectorは、その上でフォルダ、モード、保存先のWorkspaceを選びます。

NASでファイルが削除された場合はどうなりますか？

インデックスモードでは、二回の完全な同期でファイルが見つからなくなると、ドキュメントはごみ箱へ移動します。多数のファイルが一度に消えた場合、PaperOfficeは **削除を確認** からのご確認を待ちます。

保存先のWorkspaceを変更するとどうなりますか？

Connectorはすべてのファイルを新しいWorkspaceに改めて取り込みます。すでに取り込まれたドキュメントは、以前のWorkspaceに残ります。メールのConnectorsでは、新しいWorkspaceは新しいメッセージに適用されます。

料金はどのように請求されますか？

利用量に応じて請求されます。同期の回数に加え、Workspaceでの処理も、そのAI-DMSティアに応じて計上されます。詳細は料金ページに掲載されています。

はじめに

今日、最初のフォルダを接続しましょう。

app.paperoffice.ai でアカウントを作成し、インポートソースとしてStorage Mountを保存して、**Document AI > Connectors** で最初のConnectorを作成してください。

paperoffice.ai/ja/ai-connectors-konnekut-integurshon-api-aipfsu



モジュールの詳細

paperoffice.ai/ja/ai-connectors-konnekut-integurshon-api-aipfsu

料金

paperoffice.ai/en/pricing

お問い合わせ

paperoffice.ai/ja/otoiawase